

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習 I	PC①/PC②/PC③/PC④		11201	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美／中園 佐恵子／成木 智子／渋谷 美智	必修	1				

授業の到達目標

この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学で必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK(思いやり)とS(奉仕)を養う。

授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。大学の授業で必要なこと、そして卒業後社会人として役立つことなどを身に付けていく。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、人間関係を築いて欲しい。

授業計画

- 1 (1)オリエンテーション(大学生としての姿勢)
(2)言語1
- 2 オリエンテーション(図書館の利用方法について)
- 3 (1)言語2
(2)オリエンテーション(本学の学生としての姿勢)
- 4 (1)言語3
(2)キャンパスライフ(クラスでの自己紹介)
- 5 (1)言語4
(2)キャンパスライフ(相談)
- 6 (1)社会1
(2)キャンパスライフ(課外活動について)
- 7 (1)社会2
(2)キャンパスライフ(課外活動について)
- 8 (1)社会3
(2)キャンパスライフ(課外活動について)
- 9 (1)社会4
(2)スタディスキル(受講)
- 10 (1)数学1
(2)スタディスキル(理解と表現1)
- 11 (1)数学2
(2)スタディスキル(理解と表現2)
- 12 (1)数学3

- (2)キャンパスライフ(今後の学修について)
- 13 (1)数学4
(2)キャンパスライフ(学生相談)
- 14 (1)確認試験1
(2)スタディスキル(理解と表現3)
- 15 (1)確認試験2
(2)スタディスキル確認演習

授業の方法

演習形式

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法、その他

リメディアル 50% (平常点70% 定期試験30%)
後半学習50% (平常点70% eラーニング30%)

欠席について

3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

テキスト

一般常識リメディアルテキスト(育仲社)
3訂 大学 学びのことはじめ～初年次セミナーワークブック(ナカニシヤ出版)

留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上をとらなければ不合格とする。欠席1回につき合格点は1点上がる。eラーニングを課題とし、実力診断テスト10クリアすることとする。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習 II	ET①/ET②/ET③/ET④/ET⑤		11205	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宮副 紀子／小野 礼子／佐伯 瑠璃子／白井 昭彦／吉野 美智子	必修	1				

授業の到達目標

この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学で必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK(思いやり)とS(奉仕)を養う。

授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、しっかりと人間関係を築いて欲しい。

授業計画

- 1 (1)言語1
(2)今学期の目標を設定する。
- 2 (1)言語2
(2)共同作業:大学祭での企画立案と実施。
- 3 (1)言語3
(2)共同作業:大学祭での企画立案と実施。
- 4 (1)言語4
(2)共同作業:大学祭での企画立案と実施。
- 5 (1)社会1
(2)共同作業:大学祭での企画立案と実施。
- 6 (1)社会2
(2)レポート作成:参考文献様式の復習。
- 7 (1)社会3
(2)レポート作成:参考文献様式の復習と間接引用のやり方。
- 8 (1)社会4
(2)レポート作成:間接引用のやり方。要約とは。
- 9 (1)数学1
(2)レポート作成:要約をする。
- 10 (1)数学2
(2)レポート作成:学生同士で交換し、互いのレポート草稿の添削を行う。
- 11 (1)数学3
(2)レポート作成:学生同士で交換し、互いのレポート草稿の添削を行う。

- 12 (1)数学4
(2)Kaisei English and Tourism Festival
- 13 (1)確認試験1
(2)レポート作成:学生同士で交換し、互いのレポート草稿の添削を行う。
- 14 (1)確認試験2
(2)レポート作成:教員からの添削をもとにレポートを完成する。
- 15 (1)確認試験3
(2)教員からの添削をもとにレポートを完成し、提出する。

授業の方法

演習形式

準備学修

テキストでしっかりと、予習・復習すること。eラーニングを活用すること。準備学習には60時間以上かけること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

テキスト

一般常識リメディアルテキスト(育仲社)

留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上を盗らなければ不合格とする。欠席1回につき、合格点を1点上げる。eラーニングを課題とし、指定された箇所まで進んでいなければ単位を認めない。教学カルテも評価対象とする。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習Ⅱ	PC①/PC②/PC③/PC④	11205	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
森 晴美／中園 佐恵子／成木 智子／渋谷 美智	必修	1			

授業の到達目標

この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学で必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK(思いやり)とS(奉仕)を養う。

授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。大学の授業で必要なこと、そして卒業後社会人として役立つことなどを身に付けていく。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、しっかりと人間関係を築いて欲しい。

授業計画

- 1 (1)言語1
(2)オリエンテーション
- 2 (1)言語2
(2)キャンパスライフ(課外活動についてのディスカッション)
- 3 (1)言語3
(2)キャンパスライフ(課外活動についてのディスカッション)
- 4 (1)言語4
(2)キャンパスライフ(課外活動についてのディスカッション)
- 5 (1)社会1
(2)スタディスキル(教学カルテ入力について)
- 6 (1)社会2
(2)キャリアデザイン(社会意識1)
- 7 (1)社会3
(2)キャリアデザイン(社会意識2)
- 8 (1)社会4
(2)キャリアデザイン(社会意識3)
- 9 (1)数学1
(2)キャリアデザイン(社会意識4)
- 10 (1)数学2
(2)スタディスキル(リサーチ1)
- 11 (1)数学3
(2)スタディスキル(リサーチ2)
- 12 (1)数学4

- (2)スタディスキル(リサーチ3)
- 13 (1)確認試験1
(2)社会人への 歩(今後の学修について)
- 14 (1)確認試験2
(2)スタディスキル(リサーチ4)
- 15 (1)確認試験3
(2)アカデミックスキル確認演習

授業の方法

演習形式

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

リメディアル50% (平常点70% 定期試験30%)
後半学修50% (平常点60% eラーニング30% 教学カルテ10%)

欠席について

3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

テキスト

一般常識リメディアルテキスト(育伸社)
3訂 大学 学びのことはじめ～初年次セミナーワークブック(ナカニシヤ出版)

留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上を盗らなければ不合格とする。欠席1回につき、合格点を1点上げる。eラーニングを課題とし、実力診断テスト20クリアをすること。教学カルテも評価対象とする。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
海星学Ⅰ	ET①/ET②/ET③/ET④	11206	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
箕野 聡子／佐伯 瑠璃子／酒井 新一郎／白井 昭彦	必修	1			

授業の到達目標

神戸海星女子学院大学の建学の精神や歴史についての理解し、本学の学生としての自覚を深める。そのために、人格的素養としてのKAISEIパーソナリティの項目についての学び、並行し行われるキャリアプログラムと合わせ、各自の考えを持ち、内面的に自らを磨き自身のキャリアデザインを磨く。

授業の概要

KAISEIパーソナリティ「K・A・I・S・E・I」の6つの言葉を、グループでの討論や研究を通して身につける。具体的にはコミュニケーションを養いながら、他者と協力する力、発信する力をつけていく。それと並行して行われるキャリア教育のプログラムから社会で働くこと・社会との関係について考え、自身の将来に意識を向けていく。

授業は授業内容に合わせて、学年全体、学科別、またはクラス別に行う。

授業計画

- 1 海星学とは
- 2 KAISEIパーソナリティについて
- 3 キャリアプログラム①「社会を知る」
- 4 キャリアプログラム②「社会で働く」
- 5 キャリアプログラム③「職種・業界」
- 6 キャリアプログラム④「学科の学びとキャリア」
- 7 ポートフォリオ(学生カルテ)①とeラーニング
- 8 ポートフォリオ(学生カルテ)②とeラーニング
- 9 海星を学ぶ① [K:思いやり]
- 10 海星を学ぶ② [S:奉仕]
- 11 海星を学ぶ③ [I:国際性]
- 12 海星を学ぶ④ [A:自律]
- 13 海星を学ぶ⑤ [E:倫理]
- 14 海星を学ぶ⑥ [I:知性]
- 15 ポートフォリオ(学生カルテ)

授業の方法

講義または個人作業・協同作業、グループディスカッション、プレ

ゼンテーションなど授業によってさまざまな形で行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①各教員から課題が与えられる。フィールドバックの方法は教員によって異なる。
- ②出席点30%、レポート・小テスト・発表など40% eラーニング30%

欠席について

出席を重視する。欠席が5回を超えると単位は修得できない。

テキスト

プリント使用

留意事項

eラーニングを課題とし、指定された箇所まで進んでいなければ単位を認めない。

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp・saeki@kaiei.ac.jp・sakai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・表現（造形表現）	①/②		17601	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	選択	1	公立幼稚園教員、私立保育所保育士			

授業の到達目標

乳幼児の造形表現遊びを指導するための理論と保育実践例を学び、自らの表現力を高める。教材や用具の扱い方の基礎基本を理解し環境を構成する力や作品を読み取る力、保育指導案を立案し実践する力を身に付ける。KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

造形表現における乳幼児の発達や特徴について詳述する。造形表現で扱う材料用具の基礎基本事項と技法について演習を行い、鑑賞活動を通して感性をより高める。教材研究を継続して行い、保育指導案作成のポイントを学び、実践力を身に付ける。造形表現に使う材料を自ら収集し、それらを使って模擬保育を行う。授業での制作物の一部は地域や学内の子育ての支援活動に活かす。

授業計画

- 1 領域「表現」のねらいと内容、乳幼児の造形表現の意義について
- 2 造形表現における乳幼児の発達と他領域との関連
- 3 情報機器、視聴覚教材の活用法及び保育指導案の構成と展開
- 4 地域や美術館との連携、小学校教育への接続
- 5 園行事やごっこ遊び、お話の世界と造形表現
- 6 様々な技法や身近な材料、自然物を使った楽しい造形表現
- 7 模擬保育と評価及び反省
- 8 模擬保育の改善とまとめ

授業の方法

講義と実習を中心とする。学修のまとめとして模擬保育を行い学び合いの機会をもつ。

準備学修

Webを参照すること。

課題・評価方法、その他

- ① 製作遊びの作品提出、鑑賞レポート、シミュレーションシート、収集した教材の提出、保育指導案の作成と実践を課題とする。講義においてフィードバックを行う。

② 平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき5点減点、遅刻1回につき2点減点とする。

テキスト

樋口 成『幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形教材』2018年（株）萌文書林

参考図書

文部科学省『幼稚園教育要領解説』、厚生労働省『保育所保育指針解説』
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』

留意事項

身近な素材や自然に触れる経験を積むように努めること。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育原理			17607	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	2	公立保育所保育士 私立保育園保育士			

授業の到達目標

1. 保育の意義について理解する。
2. 保育所保育指針について基本的知識を得る。
3. 保育内容と方法についての基本的知識を得る。
4. 保育の制度・思想についての基本的知識を得る。
5. 保育の現状と未来について、自分なりに考えをまとめ、発言できる。

このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

1. 保育・幼児教育に携わる者に求められる基本的知識を得ていながら、保育・幼児教育の根幹をなす原理を理解する。
2. 現代における保育・幼児教育の社会的役割を理解する。
3. 現代における子育て支援について理解を深める。

授業計画

- 1 保育原理を学ぶ意義について
- 2 保育の方向性と保育実践の基礎になる発達観
- 3 保育に関する諸法令からみる保育の原理
- 4 保育所保育指針と幼稚園教育要領にみる保育の原理（1）
- 5 保育所保育指針と幼稚園教育要領にみる保育の原理（2）
- 6 養護と教育の 体化について
- 7 保育実践の基本的構造について
- 8 多様な保育内容とその方法
- 9 子育て支援について
- 10 西洋と日本の保育の創成期
- 11 西洋の保育実践の発展過程
- 12 日本の保育実践の発展過程
- 13 児童中心主義の保育を探る
- 14 保育者の在り方を考える
- 15 これからの保育にむけて
まとめを行ってから試験を行う。

授業の方法

講義を主とするが、グルーptークを取り入れる。毎回、前週の講義の振り返りを行い、確認テストを適宜行うことで知識の定着を図る。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点30%確認小テスト20%定期試験50%

欠席について

欠席1回につき3点減点、遅刻1回につき1点減点とする。

テキスト

佐伯 弥・金瑛珠「Workで学ぶ保育原理」株式会社わかば社

参考図書

文部科学省「幼稚園教育要領解説」、厚生労働省「保育所保育指針解説書」
内閣府・文部科学省・構成労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

教員連絡先

nariki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・人間関係			17629	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	2	公立保育所保育士 私立保育園保育士			

授業の到達目標

乳幼児期における子どもの人間関係づくりの基礎を学ぶ。幼稚園教育要領と保育所保育指針に基づき、戦後から現代までの保育に係る「人間関係」の変化とその捉え方を理解する。さらに、今回の改訂で重視されている地域子育て支援センターの役割や保育者の使命について理解を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とA（自律）の育成を目指す。

授業の概要

乳幼児期は心身ともに触れ合う社会的、情動的コミュニケーションが重要な時期である。生まれた直後から養育者に抱かれ、体の温もりを感じながら、コミュニケーションし、人間関係の最所の発達課題である愛着や信頼を獲得していく。発達するにつれて、生活空間を広げ、幼稚園等施設に入園し、保育者や仲間と出会い、関わりを通して、自立心や他者への愛情や信頼、生活習慣や態度を身に付けていく。このように人格の基礎を培う乳幼児期に関わる保育者及び教師の役割と責任は大きい。子どもたちが友だちと楽しく活動する中で共通の目的を見出して自然な形で協力することの良さを理解できるように役立つ技法、遊び、観察法等を学ぶ。

授業計画

- 1 幼児教育の目的と領域・領域「人間関係」
- 2 幼児教育の基本と保育者のさまざまな役割
- 3 乳幼児期の発達と領域「人間関係」①
- 4 乳幼児期の発達と領域「人間関係」②
- 5 子どもと保育者の関わり①
- 6 子どもと保育者の関わり②
- 7 遊びのなかのひととの関わり①
- 8 遊びのなかのひととの関わり②
- 9 生活を通して育つひととの関わり①
- 10 生活を通して育つひととの関わり②
- 11 個と集団の育ち①
- 12 個と集団の育ち②
- 13 ひととの関わりを見る視点
自己の発達とひととの関わり
- 14 現代の保育の課題と領域「人間関係」

15 子ども同士の人間関係の形成を効果的に援助し促進するための知識を習得する。
まとめを行ってから試験をする。

授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。
グループディスカッション後は担当教員がフィードバックを行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。
 - ②グループディスカッション後は、担当教員によるフィードバックを行う。
- 平常点30%、課題レポート20%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき3点減点、遅刻1回につき1点の減点とする。

テキスト

岩立京子（編者代表）、無藤隆（監修）「新訂 事例で学ぶ保育内容 領域 人間関係」萌文書林

参考図書

文部科学省「幼稚園教育要領解説」、厚生労働省「保育所保育指針解説」
内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

教員連絡先

nariki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・言葉			17633	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	選択	2	公立幼稚園教員、民間保育士			

授業の到達目標

乳幼児期の言葉の発達の概要を理解する。言葉を獲得し思いを伝え合うようになるための環境や遊び、指導援助の方法について学ぶ。発達を理解し、生活の流れに即した教材選定力や保育指導案の作成力と実践力を身に付ける。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

乳幼児の言葉の発達を詳説し、視聴覚教材を活用して、さらにイメージを確かなものにする。そして、言葉の育ちを促す絵本やお話の教材研究や、保育指導案作成と模擬保育を行う。また、発達に即した教材制作を通して言語環境を整え、乳幼児の豊かな言葉と言語活動を育む保育を学ぶ。

授業計画

- 1 領域「言葉」について
- 2 乳幼児の言葉の育ちを支える要因
- 3 乳児期の発達と言葉の獲得
- 4 乳児期の言葉の発達を促す保育と教材
- 5 満1歳以上満3歳未満児の発達と言葉の獲得
- 6 満1歳以上満3歳未満児の言葉の発達を促す保育と教材
- 7 満3歳以上の幼児の発達と言葉の獲得
- 8 満3歳以上の幼児の言葉の発達を促す保育と教材
- 9 言葉の獲得において特別な支援を要する乳幼児への保育
- 10 豊かな言葉を育む児童文化(歌、手遊び、言葉遊び)(情報機器及び教材の活用を含む)
- 11 豊かな言葉を育む児童文化(絵本や紙芝居)
- 12 豊かな言葉を育む児童文化(人形劇やペープサート、パネルシアターやエプロンシアター等)
- 13 伝え合い分かり合う楽しい劇遊び(情報機器及び教材の活用を含む)
- 14 模擬保育と振り返り
- 15 まとめを行ってから試験をする

授業の方法

講義を主とするが、言葉を育む保育実践についての発表を加える。また、教材を制作し教育実習や保育実践にいかす。知識の定着を図

るため、小テストを行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①絵本データシートや、自修シートの提出を2回、模擬保育（教材の作成を含む）を課題とする。講義の中でフィードバックを行う。
- ②平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき3点、遅刻1回につき1点の減点とする。

テキスト

岸井勇雄・無藤隆、湯川秀樹[監修]太田光洋[編著]『保育・教育ネオシリーズ20 保育内容・言葉 第三版』2018年(株)同文書院

参考図書

文部科学省『幼稚園教育要領解説』、厚生労働省『保育所保育指針解説』、
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』

留意事項

保育の基礎技術を高めるため、わらべ歌や言葉遊び、絵本、幼児用テレビ番組などに日頃から親しんでおくこと。地域の図書館での企画展示やおはなし会などに関心をもつこと。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもの健康と安全			17647	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	1	公立保育所保育士 私立保育園保育士			

授業の到達目標

保健的観点を踏まえた保育環境及び援助について理解する。関連するガイドライン（※）や近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。子どもの体調不良等に対する適切な対応や保育における感染症対策について具体的に理解する。子どもの発達や状態等に即した適切な対応について具体的に理解する。子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について具体的に理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）、E（倫理）を考える。

※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（平成23年3月厚生労働省）
 「2018年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」（平成30年3月 厚生労働省）
 「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」（平成28年3月 内閣府・文部科学省・厚生労働省）等

授業の概要

子どもの安全で衛生的な生活を保障し、日々快適に過ごせるための健康・安全に係る保健活動の計画や実践について学ぶ。保健的観点を踏まえた保育環境及び援助、関連するガイドライン（※）や近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について具体的に理解する。子どもの体調不良等について適切な対応（応急処置や救急処置及び救急蘇生法含む）、感染症対策について具体的に理解する。保育における保健的対応の中で3歳未満児、個別的な配慮を要する子ども、障がいのある子どもへの対応について学ぶ。健康及び安全の管理の実施体制について具体的に理解する。

授業計画

- 1 保健的観点を踏まえた保育環境及び援助
- 2 保育における健康及び安全の管理
- 3 子どもの体調不良に対する適切な対応
- 4 救急処置及び蘇生法
- 5 感染症対策について
- 6 保育における保健的対応について

7 健康及び安全の管理の実施体制について
 8 まとめ 定期試験

授業の方法

講義及び演習を中心とする。グループワークも取り入れる。

準備学修

日頃より衛生管理や安全管理を認識し、自己の健康管理にも留意する。事前に必ずテキストを熟読しておくこと。

課題・評価方法、その他

平常点50% 定期試験50%

欠席について

欠席1回につき3点減点、遅刻1回につき1点減点とする。

テキスト

「子どもの健康と安全」中根淳子・佐藤直子 編著 ななみ書房

参考図書

保育所保育指針解説（フレーベル館）
 授業時に随時紹介する。

留意事項

演習については事前に連絡する。

教員連絡先

nariki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもの食と栄養			17650	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	2	公立保育所保育士 私立保育園保育士			

授業の到達目標

子どもの発育・成長に伴う食と栄養の基本を理解し、自ら考え、現場で対応できる力をつける。子どもの食生活がその後の人生の基盤となり身体が育成されることを学び、適切な食生活の在り方を指導できる力をつける。保育者は、子どもに最も近い距離にあり、多くを伝え、学ぶ機会を与えることの出来る立場となる。特に学ぶべきことは、栄養・食生活・身体発育の知識はもちろんであるが、その知識を思いやりを持って現場で伝える実践力を養うことにある。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）、A（自律）、S（奉仕）を養う。

授業の概要

乳幼児期は、食生活の基礎が形作られる時期であり、子どもが健康な体を育成するためには食生活の正しい習慣付けは重要である。また、小児期の栄養は、保育者に委ねられることから、保育者が正しい栄養の知識と摂取方法、身体の仕組みおよび発達などを理解する必要がある。子どもの段階的な発育・発達を的確に捉え、その時期に必要な食生活と栄養について、現場で指導出来るように、多角的な栄養・健康の知識のみならず、自ら考える力や、実行する力も養うための発表形式の演習も取り入れる。食育基本法や児童福祉施設における食生活の現状や課題、及び特別な配慮を要する子どもの食生活と栄養について理解し対応出来る知識および方法を学ぶ。

授業計画

- 1 保育における子どもの食と栄養
- 2 子どもの心身の健康と食生活
- 3 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能
- 4 食事の摂取基準と献立作成・調理の基本
- 5 胎児期、乳児期の授乳・離乳の意義と食生活
- 6 幼児期の心身の発達と食生活
- 7 学童期、思春期の心身の発達と食生活
- 8 幼児施設における食育
- 9 食育の内容と計画および評価
- 10 食を通じた地域の関係機関や職員間の連携
- 11 食生活指導および食を通じた保護者への支援
- 12 家庭における食と栄養
- 13 児童福祉施設における食と栄養

14 特別な配慮を要する子どもの食と栄養
 15 子どもの食生活の現状と課題・まとめ・定期試験

授業の方法

講義および実践演習により行う。担当者による発表形式も取り入れる。

準備学修

Webで詳細を参照すること。
 出された課題に前向きに取り組むこと。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。
 欠席1回につき3点減点、遅刻1回につき1点減点とする。

テキスト

子育て・子育てを支援する 子どもの食と栄養 堤ちはる・土井正子 編著 萌文書林

参考図書

必要に応じて随時紹介する。

教員連絡先

nariki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については、教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・表現（身体表現）	①/②		17653	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	1	公立保育所保育士 私立保育園保育士			

授業の到達目標

乳幼児が心をはずませ、のびのびと身体を動かし、表現の喜びを十分に味わえるための指導法を理解する。また、様々な表現方法を学習し、感性を磨き創造的な発想で身体を動かす力を身につける。さらに、情報機器や身体表現を促す教材の活用、環境構成の在り方は、表現活動に関する取り組みなどを学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とK（思いやり）を養う。

授業の概要

身体表現は、心と体を解放し創造性を引き出す意義ある活動である。乳幼児の素朴な表現を受け止め、内容や活動を広めたり深めたりする指導法や発達の過程、豊かな感性などについて情報機器も活用して詳説する。これらの学習を踏まえ、指導案を作成し、教材を活用した保育展開や環境を構成する力を身につける。まとめとして物語を通してイメージをふくらませ、グループで表現活動として発表する機会を持つ。

授業計画

- 1 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「表現」のねらいと内容の理解、身体表現の意義の理解、表現と表出について
- 2 子どもの表現行動と精神発達（表出することを楽しむ、模倣性を体験する）
- 3 子どものからだで表現（発達段階に即した動き、基本リズム、模範表現）
- 4 身体の諸感覚を通し、身近な材料を用いた楽しい表現活動の発表と振り返り・課題レポート提出
- 5 季節や行事、伝統芸能、伝承あそびなどの体験と表現活動
- 6 創造性を豊かにする身体表現と小学校の教科との関連
- 7 子どもの想像力を養う表現活動と指導案の作成（情報機器や教材の活用を行う）
- 8 物語を題材にした創作表現のグループ発表と振り返りとまとめ

授業の方法

講義と演習を中心とする。学修のまとめとしてグループで表現活動の発表を行い、学び合いの機会をもつ。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。
 - ②グループ発表後は、担当教員によるフィードバックを行う。
- 平常点60% 課題レポート30% 指導案10%

欠席について

欠席1回につき3点減点、遅刻1回につき1点減点とする。

テキスト

池田裕恵・猪崎弥生編著 「保育内容「表現」 からだで感じる・表す・伝える」改訂第2版
株式会社杏林書院

参考図書

授業時に紹介する。

留意事項

第1講義より2号館体育室で行う。動きやすい服装、体育館シューズ着用で出席すること。

教員連絡先

nariki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・表現（音楽表現）			17655	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
南 夏世	選択	1				

授業の到達目標

子どもたちの表現する喜びや意欲を育てることができる指導者を目指し、子どもの発達や現代の環境等を踏まえて様々な音楽表現活動が展開できるよう教材を研究し、演習する。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

1. 領域「表現」の目標・内容を学び、活動内容や保育者としての配慮を理解する。
2. 音楽の基本となるリズムについて学習し、手拍子やリズム合奏および身体表現活動などの演習を通して、リズムの意義や活動を理解する。
3. 日々の活動に必要な歌唱教材を研究し、子どもの成長に合わせた活動内容や指導方法を修得する。

授業計画

- 1 領域「表現」について・子どもの成長と音楽的発達
- 2 リズム・リズム遊び
- 3 器楽合奏
- 4 器楽合奏
- 5 子どもの歌について（わらべうたと童謡）
- 6 子どもの歌の教材研究と指導法
- 7 指導案作成と実践
- 8 授業の振り返りとまとめ
- 9
- 10
- 11
- 12
- 13
- 14
- 15

授業の方法

講義内容に則り、演習・発表を行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①授業の課題ごとの発表や演奏に対し、フィールドバックを行う。
- ②平常点70%、定期試験30%

欠席について

授業毎の発表や演習が評価対象になるので、できるだけ欠席しないこと。

テキスト

「あそびうた大全集200」細田淳子著 永岡書店発行

参考図書

授業時に指示する。

留意事項

爪は必ず切ること。動きやすい服装で受講すること。

教員連絡先

minami@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
幼児教育指導法			17725	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐原 信江	選択	2	公立幼稚園教員			

授業の到達目標

幼児期の教育・保育の実践にあたり、基本となる教育内容の再認識と指導実践力の習得をめざす。この科目ではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)を養う。

授業の概要

幼児期の教育の基本を再認識するとともに、視覚教材(PP)を通して、子どもの生活や遊びとはどのようなものが学ぶ。また教材研究と演習、指導案作成と模擬保育を通して、教師の役割について実践的な習得をめざす。

授業計画

- 1 幼児の生活と幼稚園の役割、幼児期の特性
- 2 幼児期の教育の基本(人格形成の基礎・環境を通して行う教育)
- 3 幼児期の教育の基本(5領域のねらい及び内容・幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿・個々に応じた指導など)
- 4 幼児期の教育の基本(教師の役割、教職員間の連携)
- 5 教材研究と演習①ペーパーサート シナリオと教材の作成
- 6 教材研究と演習②ペーパーサート グループで協力し人形劇の完成
- 7 教材研究と演習③ペーパーサート 各グループの演習と評価
- 8 保育内容の指導実践①基本的な生活習慣の育成・安全教育
- 9 保育内容の指導実践②いろいろな行事、自然を取り入れた活動
- 10 保育内容の指導実践③保護者との連携、子育ての支援・預かり保育
- 11 保育内容の指導実践④小学校教育との円滑な接続
- 12 教材作成と模擬保育①パネルシアターの作成
- 13 教材作成と模擬保育②パネルシアターを活用した保育指導案の作成
- 14 教材作成と模擬保育③指導案をもとに模擬保育
- 15 幼稚園で実際の保育体験と振り返り

授業の方法

実際の園生活の様子を視聴しながら講義を進める。加えて教材作成、実技演習、グループディスカッションなどを通して、実践的な指導力をつけていく。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①教材作成のもと指導案作成と模擬保育を行い、授業内で教員によるフィードバックを行う。
- ②平常点30% 演習30% レポート等の提出40%

欠席について

1回の欠席につき3点減点とする。

テキスト

「幼稚園教育要領解説」(文部科学省)「保育所保育指針解説」(厚生労働省)「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(内閣府・文部科学省・厚生労働省)「実践!造形あそび」(ナツメ社)「あそぶうた大全集200」(永岡書店)

参考図書

「初等教育資料」文部科学省「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続について」文部科学省「幼児教育じほう」全国国公立幼稚園長会

教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
幼児理解の理論と方法(教育相談を含む)			17727	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	2	公立保育所保育士 私立保育園保育士			

授業の到達目標

幼児の実態に即し、生育環境や集団の中での育ち合い等の多様な環境を背景とした幼児理解の意義を理解する。また、幼児の発達や学びを捉える基礎資料となる観察、記録の基礎的事項、多面的な考察と分析の重要性を理解する。幼児のつまずき等の発達上の課題や保護者の多様な思いに対応する保育者の姿勢やカウンセリングの方法を理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK(思いやり)とI(知性)の育成を目指す。

授業の概要

幼児理解の意義と重要性を理解し、保育実践やエピソード記録、カンファレンスの実践を通して、幼児を多面的に理解する力を身に付ける。また、幼児の発達や生育環境など、幼児一人ひとりの実態に即した指導や、専門家を交えたチームでの対応方法、保護者の心情を理解した連携とカウンセリングマインドを基にした支援方法を身に付ける。

授業計画

- 1 幼児理解を踏まえた指導案の立案、実践後の省察を通じた幼児理解の深まりと保育の改善
- 2 統計や報道資料、保育実践から捉える幼児の発達に関わる様々な課題
- 3 幼児と保育者の信頼関係の構築及び他者との信頼関係を広げる保育者の援助
- 4 幼児期の発達と学びの理解
- 5 遊びを通じた協同性の育ちと保育者の援助の在り方
- 6 事例から捉える幼児の葛藤やつまずき等の内面理解及び個と集団の関係やその他の背景の理解
- 7 幼児理解に基づく保育者の個別支援の在り方及び幼児同士の育ち合いへの指導の在り方
- 8 幼児の発達や学びを捉え、保育に生かす観察及び記録の方法
- 9 演習:行動観察やエピソードの記録を通じた幼児理解
- 10 発表と協議:観察や記録の読み取り、幼児の多面的理解
- 11 幼児期の終わりまでに育って欲しい姿と小学校への接続
- 12 子育てに関する様々な課題と教育相談の在り方
- 13 カウンセリングマインドの重要性と基礎的な技法
- 14 演習:保護者対応を想定としたロールプレイから学ぶ心理解と支援の在り方
- 15 園内の協力的体制の構築と家庭や地域・専門機関との連携、まとめ、定期試験

授業の方法

保育実践の事例を取り入れ講義を行う。グループ討議や演習を行い、課題意識を持って主体的に取り組めるようにする。

準備学修

Webで詳細を参照とすること。
出された課題に前向きに取り組むこと。

課題・評価方法、その他

平常点50% 定期試験及び課題レポート50%

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。
欠席1回につき3点減点、遅刻1回につき1点減点とする。

テキスト

「やさしく学べる保育カウンセリング」大竹直子 著 金子書房

参考図書

「どの子にもあ〜楽しかった!の毎日」赤木和重・岡村由紀子・金子明子・馬飼野陽美 著(ひとなる書房)
文部科学省「幼稚園教育要領解説」、厚生労働省「保育所保育指針解説」、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

留意事項

グループ演習等が多いため、毎回の出席と主体的な取り組みを心がけること。

教員連絡先

nariki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育実習指導 I B			17813	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	1	公立保育所保育士 私立保育園保育士			

授業の到達目標

保育実習の意義・目的および実習の内容を理解し、自らの課題を明確化する。なお実習を円滑に進めていくため実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解し、実習がより効果的に行えるようにする。また、子どもの人権と最善の利益、プライバシーなどの守秘義務について理解する。事後指導においては、自己評価を行い課題や学習目標を明確にする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）、E（倫理）を考える。

授業の概要

実習の意義・目的・方法を理解し、実習内容・心構え・実習記録の意義と記録の仕方について学ぶ。なお実習を受けるにあたり各教科の講義で得た知識をもとに「児童福祉施設とは」を理解し、機能や保育士の役割、子どもの理解、日々の子どもの生活や遊びの援助の仕方について習得し、保育現場での実践に結びつけられるようにする。事後指導では、自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にしていく。

授業計画

- 1 実習の意義・目的・概要について理解する。
- 2 各施設の役割と機能を理解する。①
- 3 各施設の役割と機能を理解する。②
- 4 施設実習の準備と心構えを理解する。①
- 5 施設実習の準備と心構えを理解する。②
- 6 実習における観察・記録・評価の仕方を理解する。
- 7 実習記録の書き方を理解する。実践及び実習に関する諸手続
- 8 実習についての心構え、留意事項などの確認(実習事後の御礼状の書き方なども含む)
- 9 事後指導における実習の総括と自己評価、課題の明確化

授業の方法

講義・演習・実践により進める。

準備学修

webで参照すること。

実習施設についての概要を事前に調べる。手あそびを数多く知るようしたり、絵本の読み聞かせの練習をしたりする。

課題・評価方法、その他

授業出席状況・諸提出物・実習記録などにより評価する。定期試験は実施しない。

欠席について

欠席は、1回につき5点減点とする。

テキスト

必要資料については随時プリントを配布する。

参考図書

あそびうた大全集 永岡書店
手あそび百科 ひかりのくに
実習の記録と指導案 ひかりのくに

留意事項

実習を受けるまでに乳幼児の発達過程をしっかり把握し、保育実践の知識や技術をできるだけ多く身につけておく。

教員連絡先

nariki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育実習指導B			17820	IV	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渋谷 美智	選択	1	公立保育所保育士			

授業の到達目標

保育実習 I Aを通して得た自己課題をもとに、保育技術面での向上を目ざして学習し、十分とは言えないが実践能力を養い保育実習 II に取り組むことができたものとする。KAISEI パーソナリティのK（思いやり）とI（知性）、E（奉仕）を考え、A（自律）を養う。

授業の概要

保育実習 I Aで修得した知識をもとに、保育実習 II では現場での保育実践を念頭に置き、指導案や保育実践に取り組めるように、必要な知識や技術を学ぶ。

授業計画

- 1 保育実習 II の意義・目的を理解する
- 2 保育実習 II に関する事務手続き、書類等の配布と指導
- 3 保育実習に向けての遊びの指導①
- 4 保育実習に向けての遊びの指導②
- 5 保育実習に向けての遊びの指導③
- 6 実習指導案の作成 実習指導案に基づいた保育内容の確認、実践
- 7 実習記録の書き方について。
個人票の書き方について
- 8 実習の心構え、留意事項(事後の実習園に対するお礼状の書き方等含む)
- 9 事後指導における実習の総括と自己評価 課題の明確化

授業の方法

講義・演習・実践により進める。

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法、その他

授業出席状況・諸提出物・実習記録などにより評価する。定期試験は実施しない。

欠席について

欠席1回につき5点減点。

テキスト

保育実習指導の手引き（海星版）
必要資料については随時プリントを配布する。

参考図書

手あそび百科 ひかりのくに
実習の記録と指導案 ひかりのくに
あそびうた大全集 永岡書店
3, 4, 5歳児が夢中になる実践！造形遊び ナツメ社

留意事項

実習を受けるまでに乳幼児に関する保育実践の知識や技術をできるだけ多く身につけておく（絵本の読み聞かせ・製作・手あそび・歌など）

教員連絡先

shibuya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。